

報道機関各位

熊本大学

熊本大学提案の海底地形の名称 5 件が国際的に登録されました。

国際水路機関 (IHO) 及びユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC) が共同で推進する GEBCO^{*1} 委員会は、全世界を均質にカバーする海底地形図を作成するための国際プロジェクトで、その中に、世界の海底地形名の統一を図ることを目的とした海底地形名小委員会^{*2} (SCUFM) があります。

この度、第 25 回海底地形名小委員会が 10 月 23 日から 27 日までニュージーランド (ウェリントン) で開催され^{*3}、世界各国から提案された海底地形名が審議されました。

日本からも同小委員会の委員である海上保安庁職員を派遣するとともに、海底地形名 14 件を提案し、全てが国際的に承認され IHO/IOC 海底地名集に登録されました^{*4}。

今回国際的に承認を受けた日本の提案 14 件の内 5 件【奄美カルデラ群 (奄美カルデラ群) Amami Calderas】、【沖永良部海丘 (おきのえらぶかいきゅう) Okinoerabu Knoll】、【与論海穴 (よろんかいけつ) Yoron Hole】、【山原海丘 (やんばるかいきゅう) Yanbaru Knoll】そして【山原海穴 (やんばるかいけつ) Yanbaru Knoll】は、本学大学院自然科学研究科の横瀬久芳准教授の提案によるものです。同海域で国際的に登録されている海底地形名称は、沖縄トラフだけであり、今回の承認で新たに 5 海域が追加されることとなりました。横瀬准教授は、これらの海底地形が、トカラ列島から南に連続する海底火山であることを数年前から行っている試料調査と水深測量データに基づいて解明し、今回の提案に至りました。国際的に承認された 5 つの海底地形には、2011 年秋にレアメタルを含む黒鉱タイプの鉱石が発見^{*5}された奄美カルデラ群や与論海穴も含まれており、海底資源探査や火山防災において命名による国益上の重要性^{*6}が増大するものと思われます。

また、本会議で国際的に承認された残り 9 件の海底地形名の一つには、本学を 2004 年に退官された故本座栄一教授の名前が冠されています：【本座海山（ホンザカイザン）Honza Seamount】。本座海山は、北部マリアナ弧にある風神・雷神海山（2009 年横瀬命名^{*7}）の北にそびえ、出身母体である産業総合研究所の研究者らと共に横瀬准教授も共同提案者として加わっています。故本座教授は、1997 年に赴任され 2004 年の退官を迎えるまでの 7 年間、熊本大学で教鞭をとられ、今年 6 月に他界（享年 74 歳）されました。今回の命名は、本座教授の生前に於ける海洋地質学的功績を讃えたものです。世界中の海底地形の中で日本人名を冠したものは、本座海山が 16 番目^{*8}となります。

< 下線部に関する追加情報の URL >

- *1 大洋水深総図 (GEBCO) General Bathymetric Chart of the Oceans
http://www.gebco.net/data_and_products/undersea_feature_names/
- *2 海底地形名小委員会 (SCUFM) Sub-Committee on Undersea Features Names
http://www.iho.int/srv1/index.php?option=com_content&view=article&id=443&Itemid=747
- *3 IHO-IOC GEBCO Sub-Committee on Undersea Feature Names (SCUFN), 25th SCUFN Meeting 23rd to 27 October 2012 (Wellington, New Zealand)
http://www.iho.int/mtg_docs/com_wg/SCUFN/SCUFN25/SCUFN25Docs.htm
- *4 海上保安庁プレスリリース
<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/>
- *5 銀・レアメタルを含有する熱水鉱石を奄美沖浅海底から ... - 熊本大学
http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kouhou/pressrelease/2011_file/release111024.pdf
- *6 海底地形名命名の国際的な取り組みとその意義：
http://www.sof.or.jp/jp/news/151-200/187_1.php
- *7 GEBCO Gazetteer of Geographic Names of Undersea Features
http://www.gebco.net/data_and_products/undersea_feature_names/documents/gebco_gazetteer_July_2010.pdf
- *8 過去の日本人の名前を冠した海底地形名：
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/h23/k20110916/k110916-2.pdf>

【問い合わせ先】

熊本大学大学院自然科学研究科
横瀬 久芳 准教授
E-Mail : yokose@sci.kumamoto-u.ac.jp

<資料 1 : 命名海域の位置>

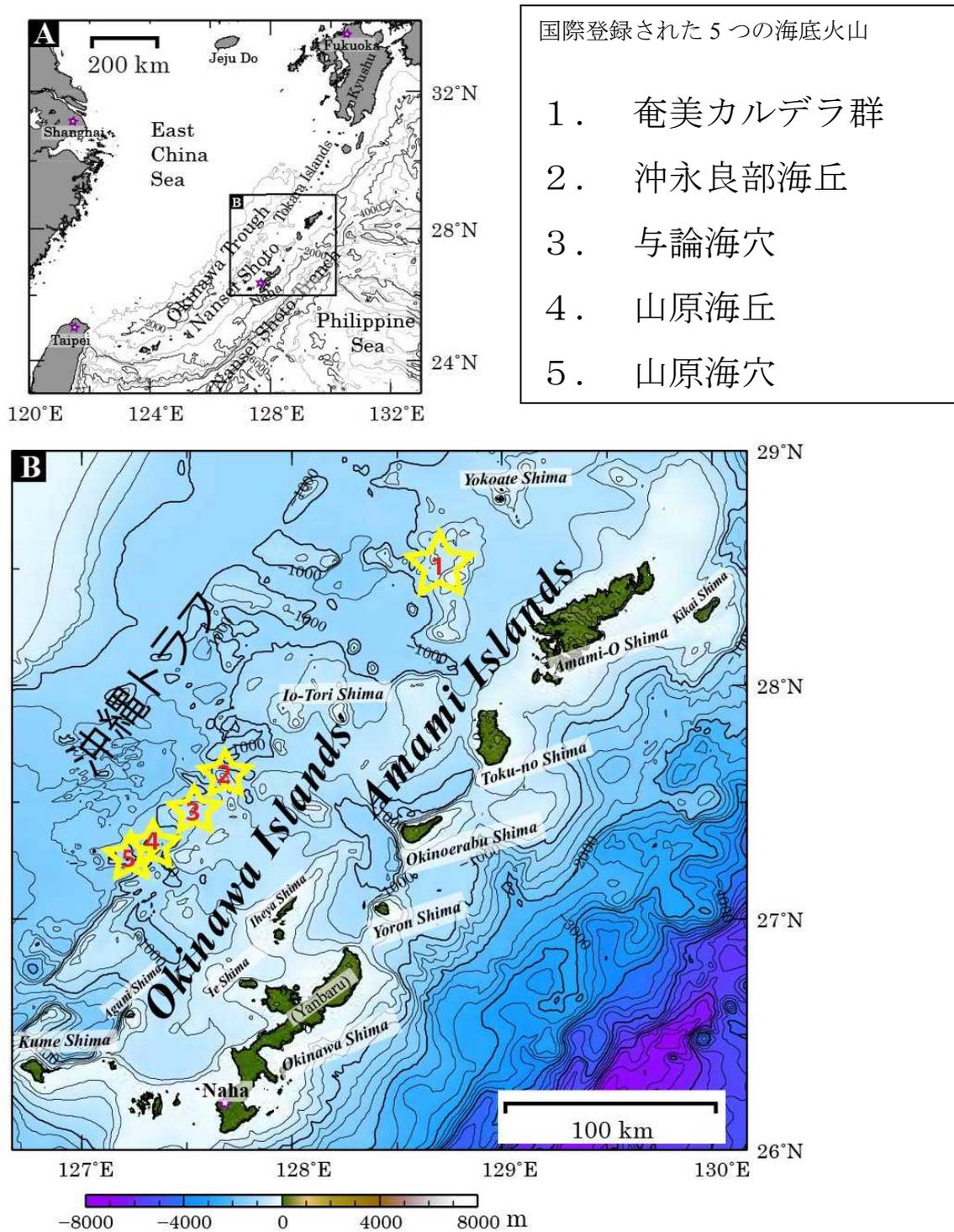
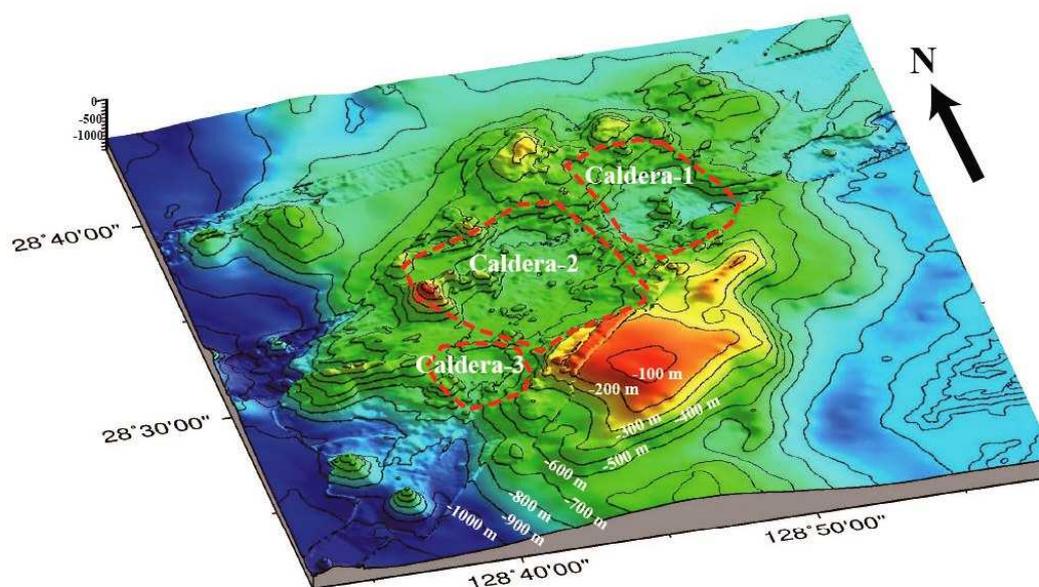
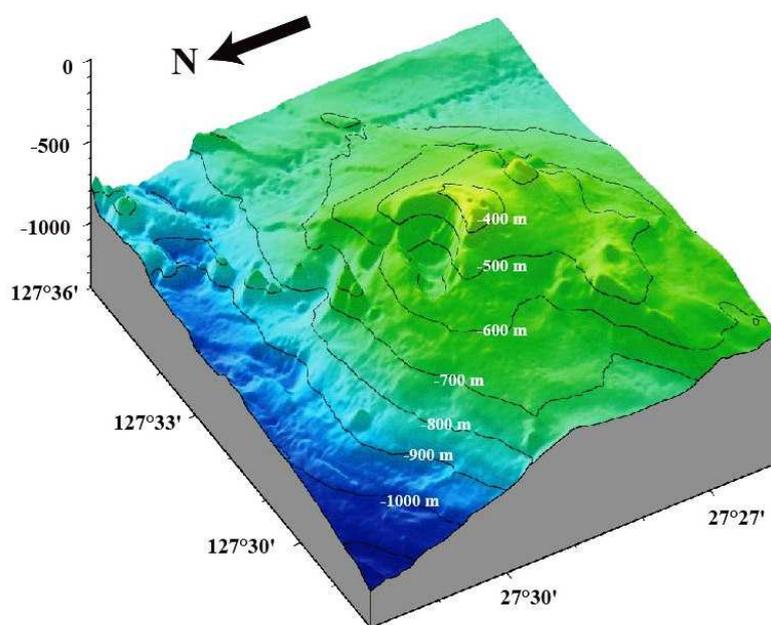


Figure 1. (A) Schematic bathymetric map (contour interval 1000 m) of the Nansei Shoto (Ryukyu Islands) and East China Sea. (B) Bathymetric details (contour interval 200 m) of the middle part of Nansei Shoto, the Okinawa and Amami Islands.

<資料 2：提案地域の代表的な立体図>



1. **奄美カルデラ群**：一辺が数 km に達するカルデラ地形 3 個によって構成されており、それぞれには中央火口丘群も存在する。これらのカルデラからレアメタルを含む黒鉱タイプの鉱石が 2011 年秋に発見されている。【提案者：横瀬（熊大）】



3. **与論海穴**：直径約 2km の明瞭な火口地形が認められる。火口底では熱水活動やチムニーの存在も潜水調査船で確認されており、火山活動が継続している可能性を示す。【提案者：横瀬（熊大），福場（JAMSTEC），石橋（九大），秋元（熊大）】